

有力熱延コイルセンター（CC）の藤澤鋼板（千葉県浦安市鉄鋼通り、社長・藤澤鐵雄氏＝写真＝）は営業活動、加工設備の両面で新規顧客開拓を含む自販強化・拡販活動に力を入れる。

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を4年後に控え、藤澤社長は「直接



接的に関連する建築・土木インフラ整備工事はもちろん

、それ以外にも五輪開催前までに完了させておこうとする民間建築案件の前倒し発注などが、早ければ今秋以降、首都圏で具現化して「と確信。すでにその一端が垣間見られるという。

直接、間接を問わずこれら建設関連需要が今後、首都圏を中心に広く関東マーケット

藤澤鋼板 建設資材向け営業に注力

で創出・喚起されることを踏まえて、コンクリート型枠など建設資材向けターゲットに戦略思考で受注活動を展開し、要取引商社およびそのグループ企業らとも連携し、建設資材関連向け需要の受け皿としていく考えだ。

大型レベラーのシャワー一新へ

厚物高張力鋼板などに対応

この受注間口とで生産性を損なわずに高品質を上げていく。これが可能となる。納期対応力もこの一環増すことから、顧客サービスで、設備面で向上に寄与する。

は主力の大型レベラーライオン「鐵腕レベラー（イーバックアップする設備の充実）」のシャワー部分を全面更新する



10月めどにシャワー部分を全面更新する「鐵腕レベラー」

決めた。シャワー部分の更新は7月からスタートした。今年度は取り扱量の増加と収益拡大を目標とする。適正加工賃の確保にも引き続き取り組む。